

かみの毛のたすけ合い

桜町小・2 林 さくら

わたしは、ヘアドネーションを二回したことがあります。

一回目は、四さいの時です。わたしは、生まれてから、四さいまで、かみの毛を切りませんでした。お父さんとお母さんは、

「せっかくだから、かみをのばしてみようか。」

と、わたしのかみの毛を切らなかったそうです。わたしが三さいくらの時、

「ずい分のびてきたね。そのままかみの毛を切るか、記ねんにふでにしようか。」

とまよったそうです。そこで、お母さんが、

「わたしもやったことがあるんだけど、ヘアドネーションはどうか。こまっっている子の気もちを考えられる子になってほしいから。」

と言うとお父さんも、

「それはいいね。」

と言って、ヘアドネーションをすることになりました。

一回目の時は、わたしは小さくて何も考えずにしたけれど、二回目、かみの毛がなくてこまっっている子を少しでもたすけられるように、かみの毛をまたのばしてヘアドネーションをもう一回しよう、自分で決めました。

そのために、きれいなかみの毛にしたいと思って、がんばりました。一回目のヘアドネーションの時は、知らない間にかみの毛がの

びていました。でも、二回目のヘアドネーションの時は、トリートメントをつけてかみの毛を手入れしたり、お父さんやお母さんにかみの毛をといてもらったりしました。かみの毛が長かった時が冬だったので、かわかすのに時間がかかったり、せい電気でかみの毛がからまってしまったりして、大へんなこともありました。

そして、とうとうかみの毛の長さが三十センチメートルより長くなったので、かみの毛を切りにびよういんへ行きました。切る前はドキドキしてきんちようしました。

「せっかく、こんなにきれいにのばしたのになあ。」

と思いましたが、このかみの毛で作ったウィッグをもらった子が、かわいくなったりかっこよくなったりしてうれしくなってくれるようにと思って、

「切ってください！」

と、言いました。切ったときは、今まで長かったのにきゆうにみじかくなって、へんなかんじがしました。でも、何だかすごいことをやり切った気がして、うれしかったです。

はじめは、お父さんとお母さんがやらせてくれたヘアドネーションだけれど、自分で

「こまっっている子を助けたいな。」

と考えて、とり組むことができました。やってみると、人のためになることをすると、気持ちがあたたかくなっていい気持ちになりました。

だから、これからもこまっっている人のために自分ができることを考えてやっていきたいと思います。

